



夏休み期間を利用して教員セミナーを開催しました。夢ふくおかネットワーク事業における教員セミナーのねらいは、早期からの就労意識の醸成です。小・中学校の特別支援学級の先生方にも参加していただき、卒業生が働く姿を間近に見て就労のイメージをもち、企業の方々のお話を聞くことでキャリア教育および職業教育の充実につなげます。

今回は障がい者雇用実績のある「株式会社キシヤ」様と「エフコープ生活協同組合」様を見学させていただきました。

株式会社キシヤ

7/24 実施
教員 13 名参加

株式会社キシヤ様は医療機器の販売や業務サポートを通して地域医療への貢献を目指す総合医療商社です。現在知的障がいのある方を中心に 13 名の方が障がい者雇用枠で働いておられます。キシヤ様が障がい者雇用に着手したきっかけは、「福岡市就労支援センターからの助言と博多高等学園の先生からの熱心なアプローチがあったから」と話されるのは物流管理課次長の伊藤様です。実習を通して知的障がいのある方々の仕事ぶりや多様性を知った伊藤様は、会社の戦力となると確信し、受入体制をつくります。その後会社としての社会的責務という観点でも役員と合意がなされ、障がい者雇用を一気に進展させて現在に至るとのことです。

見学させていただいたのはキシヤ様の SPD センターです。倉庫には、医療関係の商品が所狭しと並んでいましたが、どこに何があるのかわかりやすく整理整頓しており、商品の類似品も多いことから、それぞれの箱や棚に番号が振られ、間違いやミスを防ぐようにしているとのことでした。



株式会社キシヤ SPD センター



SPD センター内を
見学する教員

↓棚にはどの商品がどこにあるのか、分かりやすく配置され、それぞれに番号がつけられています。



↑入荷した商品に在庫ラベルを添付していく作業。「1日7時間の作業でもペースは落ちないのが彼らの強み」と、担当の伊藤様はその集中力を高く評価されています。

障がいのある方々が活躍する流通加工（分割）作業チームでは、毎日、数千品目の入荷後の在庫ラベルを丁寧に添付する作業を行います。スタッフは皆広々としたスペースで黙々と作業をしていました。一人一人作業のペースを書き込むことで、それぞれの目標を設定し、モチベーションにつなげたり、休憩時間をあえて決めずに自由にするなど勤務ペースをフレキシブルにすることで本人の特性に対応しているとのことでした。

キシヤ様が障がい者雇用を始めて約 18 年。障がいのあるスタッフのほとんどが辞めずにお仕事を頑張っているそうです。「長く働く秘訣は何より働く意欲があること、本人ももちろんだが、保護者もその気持ちを強く持つことが大事」と伊藤様は話されました。

見学の後、別室で質疑の時間を設けていただきましたが、教員からの質問はもちろん、キシヤ様からも特別支援教育や障がいのことについてたくさんの質問をいただき、障がいのあるスタッフに対する担当者の熱い思いを感じることができました。一人一人の職員にしっかり向き合い、仕事を通じて自立する教育を実践されておられるキシヤ様を見学させていただき、学校現場と重なるところが大いにあると一同頷いていました。



↑質疑応答の時間では、逆にキシヤの担当の方から学校の先生たちに質問も出ました。



エフコープ生活協同組合篠栗センター

組合員による協同組織として地元になぎした事業と活動を行っているエフコープ生活協同組合様を見学させていただきました。エフコープ様は店舗展開や配達業務で食や日用品の供給を支えるほか、介護事業や葬祭事業など様々な事業を展開しています。2011年にしょうがい者雇用方針を策定、支所・店舗を中心に雇用を進め、現在52名のしょうがいのある方を雇用しています。支所では主に商品のトラックへの積み込みや片づけ、店舗では品出しや見切り作業（値引きシール貼り）、リサイクル回収ボックスの整理や農産部門、レジ周りの作業など様々です。

見学させていただいたのは、糟屋郡篠栗の篠栗センター（本部）にある、しょうがいの方を多数雇用している特例子会社株式会社ハートコープえふ様と就労継続支援A型事業所アップルファーム様です。

ハートコープえふ様では、主に再生資源物の選別加工や請負作業・事務などの業務を行っており、現在5名のしょうがい者の方が働いています。各支所や店舗から集まってくる段ボールや発泡スチロールは膨大な量でしたが、すべてここで仕分けし、リサイクル用に加工します。多種にわたる資材の仕分けも分かりやすいように見本を提示して作業をやすくしていました。「一般企業とは違い、働くためのサポート、自立、スキルアップを目的としており、それぞれの良いところを活かし、苦手なところは助け合う会社を目指しています」そう話すのはハートコープえふの管理部長の佐伯様です。「実はこの目的もここで働く作業現場の仲間が考えたんですよ。」スタッフの意欲と自主性を重視した職場環境は、教員にとっても参考になるお話でした。

次に、同じ敷地内にあるアップルファーム様をお訪ねしました。事業内容はシタケの栽培や篠栗センター内での作業受託です。アップルファーム事業部長の長瀬様によると、農作物の成長・収穫・販売の流れはとても分かりやすくしょうがいのある方の職種として合っているということ。なかでも栽培が比較的管理しやすく、一年中同じ環境で栽培できる点から、シタケ栽培になったということです。そうはいっても毎日の水やりや温度管理、収穫のタイミングなど、生き物相手の仕事なので手を抜くことはできません。収穫したシタケを袋詰めしていく作業も見せていただきましたが、商品となるシタケを誇らしげに見せてくださった職員の笑顔に、お仕事に対する意欲が感じられ、教員も思わず顔がほころんでいました。「アップルファームは福祉サービス事業所なので、あくまでも就労支援が大前提です。シタケ栽培を通して就労に向けた知識や能力の向上を目指し、しょうがいのある方が一般就労へステップアップできるように支援することが使命なので、いずれは彼らも次の職場に羽ばたいてほしい」と長瀬様は強調されていました。



↑段ボールの材質は様々。間違えないように見本を分かりやすく提示しています



↑発泡スチロールを粉碎し、リサイクルできるように固めていく作業。機械で処理するためかなり大きい音の中での作業となります



←シタケの根元を切って収穫する作業。商品を傷つけないように慎重にはさみを入れる職員

*エフコープ様では「障がい」を「しょうがい」と表記します

セミナー終了後、参加された教員の皆様をお願いしたアンケートの一部をご紹介します。

- ◆今回の見学で、学校で教えていることと、企業が求めていることの違いを知ることができました。
(キシヤ見学 中学校特別支援学級担任)
- ◆障がいのある方一人一人の能力を認め、しっかりと向き合うことで会社の戦力として活用できているところが素晴らしいと思いました。また学校や支援機関、家庭との連携がとても大切であると教えていただきました。
(キシヤ見学 特別支援学校高等部担任)

- ◆障がいのある方の特性や個性に合わせた仕事を考えておられ、また本人の様子をつぶさに観察し、変わったことがあれば保護者に連絡するなど、サポートの手厚さにも驚きました。会社の方針が「働く仲間の側に立った運営」という点が、ほかの企業とは違うなあと感じました。
(エフコープ見学 小学校特別支援学級担任)

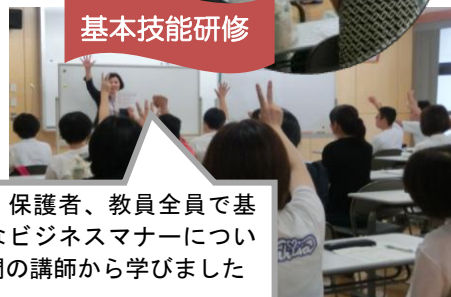


就労を目指す特別支援学校高等部の生徒に向けて、博多高等学園の設備やシステムを活用した作業体験会を開催しました。博多高等学園は就労に特化したカリキュラムと設備で企業就労を目指す学校です。その施設や作業内容等を他の特別支援学校の生徒たちにもぜひ体験していただきたいと、「夢ふくおかネットワーク」事業として企画しました。

開催したのは夏休み期間の8月9日です。市内の特別支援学校高等部の生徒11名とその保護者7名、また特別支援学校の教員19名が参加し、本格的な清掃作業や倉庫内作業を体験しました。生徒たちは他校の生徒との活動で日頃とは違う雰囲気、緊張しながらも意欲的に取り組んでいました。また博多高等学園の就労に即した実践的な作業スキルは、他の特別支援学校の先生たちにとっても大変勉強になるとのことでした。保護者の方々には、お子様の作業の様子を見学できただけでなく、就労へ向けての勉強会も行い、大変有意義な時間だったと感想をいただきました。



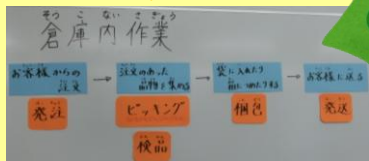
基本技能研修



生徒、保護者、教員全員で基本的なビジネスマナーについて専門の講師から学びました

ピッキング作業

確認
作業の流れを



商品の番号を頼りに、目的の品物できるだけ迅速に正確に見つけ出す作業は、初めての生徒もいたけれど、結構やれた？

注文の商品が間違いないか、入念にチェック



作業体験会

in

博多高等学園

就労に向けて一歩前進!

清掃作業

←雑巾の絞り方も大事。これくらい固めに絞ってね。



普段の『掃除』から仕事としての『清掃』へ。意識を変えることから始めよう。

モップのヘッドの動かし方ひとつで作業効率もアップ!



保護者より

- ★ピッキング作業は初めてで、時間はかかったけど意外にできたこと、そして本人がそれを楽しんでやっている様子を見ることができて、就労への目標があがりました。
- ★今回の作業体験会は、生徒、保護者、先生方の就労への意識が高まるとても良い企画だと思いました。
- ★作業の発表会では、子どもたちの緊張している様子や達成感に満ち溢れた様子を見ることができて参加して本当に良かったです。また次回もぜひ参加したいです。

教員より

- ★博多高等学園の指導を実際に自分の目で見て体験できて本当に良かったです。ぜひ自校の生徒たちにも返していきたいです。
- ★就労を想定して「いつでも、どこでも、誰とでも」できることが大事。そういう意味で今日の体験会は生徒たちにとっても大変良い経験となったと思います。
- ★自校の生徒が一日でこんなに変わるのかと驚きました。他校の生徒に刺激を受けたこともあるし、わかりやすい指示と工夫次第でもっと力を伸ばせると思いました。

企業セミナー のお知らせ

11月7日(火)

→ 昨年の企業セミナーの様子



保護者の皆様も
参加可能です。
お問い合わせください。

時間 : 15:00~17:00(受付 14:30~)
場所 : 福岡市発達教育センター
(福岡市中央区地行浜 2-1-6)



内容

● 基調講演 「人口減少時代における労働力確保と 組織経営について」

～組織能力の強化等、今後取り組むべき施策を考える～

講師: 有限会社 HR エージェント
取締役 佐藤 康弘氏

● パネルディスカッション

参加企業 ・ASUKL LOGIST 株式会社
・医療法人相生会
・特定医療法人財団博愛会

【お問い合わせ・参加申込み】

発達教育センター(担当: 山本・赤松)
TEL: 092-845-0015 FAX: 092-845-0025

情報 BOX

Q. 特別支援学校の卒業生はどんなお仕事についているのですか？

「最近の特別支援学校の卒業生は
どんなお仕事についているのですか？」

よくこんな質問を保護者の方からいただきます。

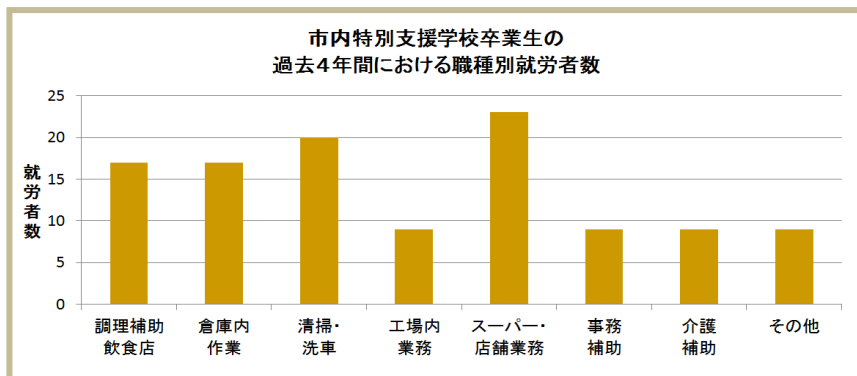
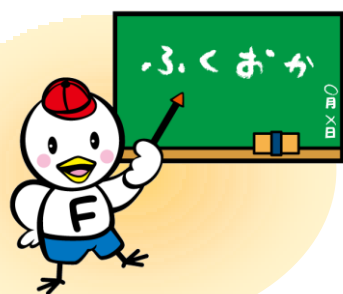
そこで H25 年度から H28 年度の 4 年間に就労した
福岡市立特別支援学校高等部卒業生の就労先を職
種別にグラフに表わしてみました。

このグラフを見ると、「スーパー・店舗業務」が
23 名と一番多く、次に「清掃・洗車」が 20 名とな
っています。これはサービス産業が多く占める福岡
市の地域性が大きく影響しており、スーパーや郊外

型大型店舗などが各区に点在し、場所を限定されず
雇用・実習先の対象となるからだと思います。

また最近の傾向としては、介護施設の増加に合わ
せ、介護補助の仕事や介護周辺業務に携わる卒業生
も増えてきつつあります。

就労を考えるうえで職種の選択は大きなウエ
イトを占めます。各学校や家庭でも、個々の生徒の適
性を十分見極めたうえで、福岡市で需要の多い仕事
をリサーチし、就労への取組や進路指導に活かして
いくことが望めます。



福岡市教育委員会 発達教育センター

福岡市中央区地行浜 2 丁目 1-6

TEL 092-845-0015 FAX 092-845-0025

E-mail yume_network@city.fukuoka.lg.jp

HP <http://www.fuku-c.ed.jp/schoolhp/hattatuc/>

「夢だより」について
のご感想、ご意見などを
お寄せください。

